

事例から研究の実際を考える

これまで、研究とは何か、研究の進め方について考察してきた。ここでは、実際に行われた研究の事例を通して、研究の構成や流れなど、研究を進める実際について考察する。

■ 初任者研修「課題研究」の実際

島根県の初任者研修では、研修項目のひとつに一年間を通して行われる「課題研究」が設定されている。

教育センターでは、平成17年度からこの課題研究成果発表の場を、センター研修最終回（2月当初）に設けている。さらに、平成18年度からは、9月末の中間発表も行っている。

下の表は、この平成17～19年度の3年間で浜田教育センター担当の初任者が取り組んだテーマ全55本を先に述べた研究の分類と研究の型で分析したものである。

内容・研究の種類・研究パターンとも、純粹にそれだけの要素を持つものの他、他の要素を併せ持つ研究も多いので、最も強い要素によって分類を行った。ただし、表中の（ ）については、副次的ではあるがその要素が同程度に強いものを示している。

	小学校 (32本中)	中学校 (10本中)	高等学校 (13本中)
内容別			
ア：学級経営に関する内容	11	—	—
イ：学習・教科指導に関する内容	11	10	9
ウ：特別支援教育に関する内容	9	—	—
エ：その他分掌業務等に関する内容	1	—	4
研究の種類別			
A 実践研究	32	7	7
B 調査研究	—	1	2
C 事例研究	(ウで7)	—	—
D 教材開発研究	—	2	4
研究パターン別			
I型 観察→仮説→検証	32	8	4
II型 仮説→検証	—	1	4
III型 観察→仮説	—	1	5

■ 初任者研修「課題研究」分析の結果

これらのことから、初任者研修の課題研究について次のことが分かる。

- 1) 小学校は学級経営、学習指導、特別支援教育などがほぼ同程度取り上げられている。
- 2) 中・高校では教科指導、分掌関係等についての研究が多い。
- 3) 実践研究が多い。
- 4) 特別支援教育関連の研究では、事例研究を行った上での実践研究が多くなっている。
- 5) 中・高校の研究では、調査研究や教材開発研究がみられる。
- 6) 小学校の研究はすべてⅠ型である。
- 7) 中・高校の研究ではⅠ～Ⅲ型のさまざまな研究パターンがみられる。

■ 初任者研修「課題研究」分析の考察

これらのことから、教育研究として最もポピュラーな形はやはり「実践研究」であるということがわかる。実際の子どもの様子の分析から学級全体の指導につなげるという内容のものが多く、特別支援教育関係のテーマについては、事例研究を土台にした実践研究としてまとめられている。

校種の違いによる傾向も顕著である。担任として子どもたちと関わっている小学校教員と、教科指導や分掌活動中心に子どもと関わることの多い中・高校初任者の業務実態が現れたものと思われる。

小学校では、各教科及び総合的な学習の時間、特別活動など、教育活動全般における研究が、学校単位でひんぱんに行われている。そのため、教員が「観察」→「仮説」→「検証」といった研究の流れになじんでおり、その結果Ⅰ型の研究が行われるケースが多いと考えられる。

逆に、中・高校においては、組織的な研究を行う機会が少ないことから、研究のイメージが固定化されていないことがうかがえる。また、中・高校では学校単位で研究を進めることは少なく、教科や分掌などでの専門性も高いため、子どもの実態などからスタートした研究というよりも、それぞれの興味関心や必要性の高い分野の研究に重点が置かれる傾向がある。

初任者研修課題研究を分析すると、やはり多くが実践研究に分類されるものであり、研究パターンⅡ・Ⅲ型においては、研究の持ち方によってⅠ型への移行も可能であることがわかる。

例えば、Ⅱ型では、十分な観察の上に仮説や指導法が必然性を持って関連付けられ、さらに実践が観察した状況へどう影響しているかを分析すれば、その研究はⅠ型となる。また、Ⅲ型は、データや資料の追及による課題の発見で終わっているが、その発見した課題を仮説として実践を行い、その結果を検証することでⅠ型の研究となる。

初任者研修では、どの型の研究をするかは指定されていない。繰り返しになるが、どのような型の研究であっても、研究として深まりのあるものとするためには、研究前と研究後の状況等について因果関係や関係性などの考察が充分になされ、研究を通して何が明らかになったか、何が生み出されたかが明確にされていることが重要である。

■ 初任者研修「課題研究」テーマ例

研究実態の具体的な理解のため、過去三年間に初任者が行った課題研究のテーマ全55本を分析した。そのうちから、傾向の異なるものを中心に校種別に6本ずつ紹介する。

◇小学校レポート例（全32本のうちの6本）

校種	番号	内容	研究テーマ	の種類	レベル
小	1	ア	お互いを認め合い、高め合っていく集団づくりを目指して ～話す力・聞く力の育成を通して～	A	I
小	2	ア	認め合い、信頼し合い、大切にしよう学級作り ～グループエンカウンターを通じて～	A	I
小	3	イ	学力向上のための基本的な生活習慣の充実 ～「早寝・早起き・朝ごはん・運動」に取り組んで生活リズムを整えよう～	A	I
小	4	イ	「学習中の意欲や集中力が高まるような一人学習の工夫」	CA	I
小	5	ウ	通常学級における特別支援教育の充実をめざして ～A児・B児とのかかわりを中心に～	CA	I
小	6	エ	学校給食における食育について	A	I

◇中学校レポート例（全10本のうちの6本）

中	1	イ	数学科における少人数授業の実践 ～1年間の数学科での取り組みを通して～	A	II
中	2	イ	美術科における鑑賞教育の充実に向けた一考察 ～今年度の実践の成果と課題～	B	III
中	3	イ	英語のライティング力を向上させるための手立て	A	I
中	4	イ	生徒たちが積極的に取り組める体育の授業とは	D	I
中	5	イ	確かな学力を身につけ 学び合うことのできる生徒の育成 ～協同的な学びを目指したグループ学習の手法～	A	I
中	6	イ	お互いのよさを認め合い学び合う生徒の育成 ～保健体育科における学び合いを深めるための効果的なペア・グループ編成～	A	I

◇高等学校レポート例（全13本のうちの6本）

高	1	イ	国語教育を通して高める人権意識	D	II
高	2	イ	数ⅠA定期試験の生徒の誤答とその対策について	B	III
高	3	イ	高等学校におけるリスニング指導法に関する研究 ～ディクテーションに焦点をあてて～	A	II
高	4	イ	世界遺産：「石見銀山遺跡とその文化的景観」の日本史への教材化について	D	I
高	5	エ	登校指導による遅刻の減少とその検証	A	I
高	6	エ	学校通信の企画、編集、製作について	A	III